

令和6年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金

MYLILY

医師と医療従事者のコラボによる
持続可能な更年期オンライン診療事業の効果検証

最終報告会資料

株式会社My Fit



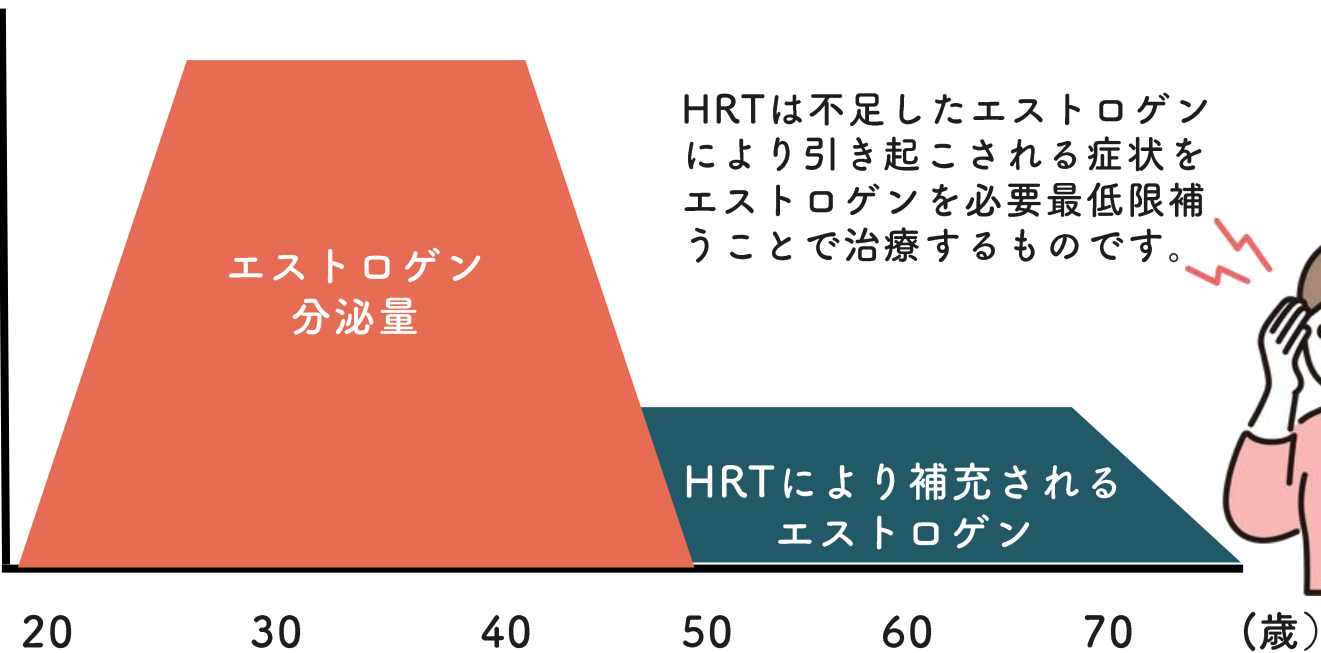
事業背景 -更年期とは-

- ・一般的に、閉経前後5年間・合わせて10年間の期間を更年期と呼ぶ。40歳を過ぎた頃から、男女問わずエストロゲンの分泌は不安定になる。特に女性の場合、エストロゲンは多くなったり少なくなったりと揺らぎながら減少する。この“揺らぎ”によって、ほてりやのぼせ、発汗、不眠など身体的・精神的不調が現れるが、この更年期に起こる不調こそが更年期障害と呼ばれる。
- ・40代女性の3人に1人、50代女性の2人に1人が更年期障害の可能性※1があり更年期症状に起因する経済損失は年間1.9兆円※2に至る。

更年期症状が起きる原理

年齢によるエストロゲン分泌量の変化と補充されるエストロゲンのイメージ
女性ホルモンの分泌が急激に減少しホルモンバランスが乱れることで更年期に伴う不調が現れる。

エストロゲン分泌量



主な症状

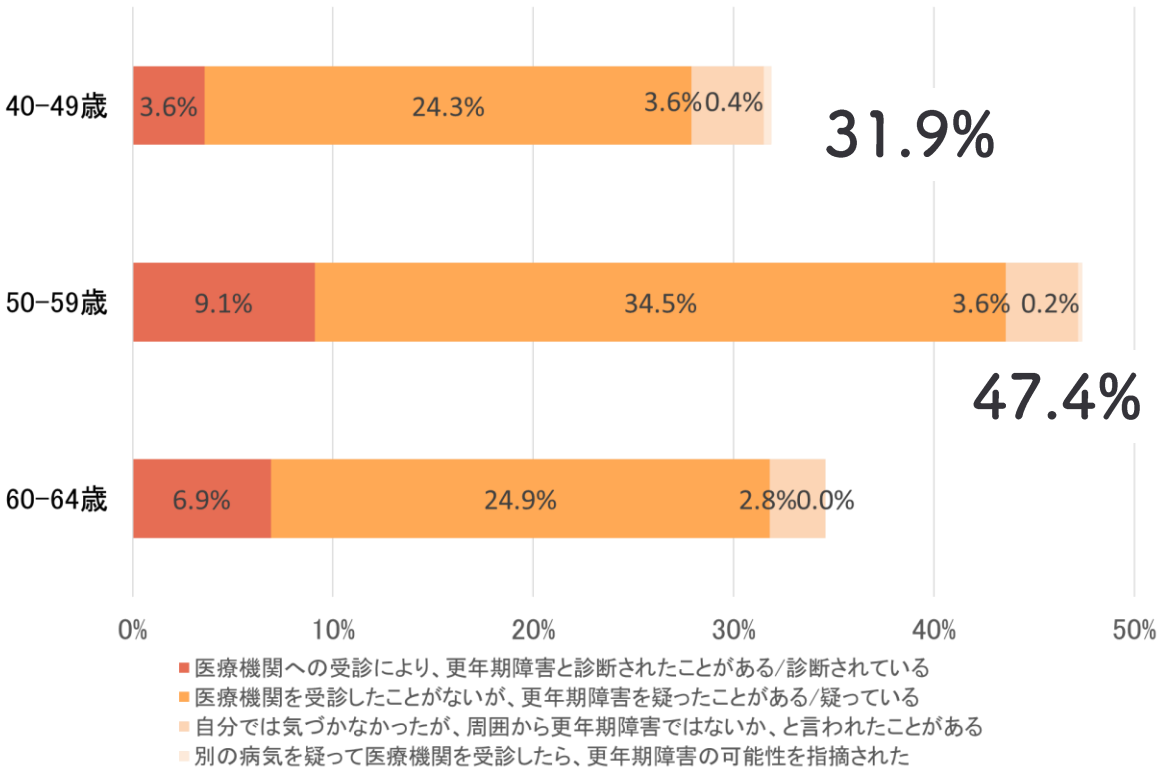
更年期症状は、個人差が大きく、さまざまな形で現れます。ほてりや発汗、めまい、気分の浮き沈みなど、多岐にわたる症状があり、人によって現れる症状や程度が異なります。

約100種類以上の症状がある

- | | | |
|--------|-----|---------|
| 記憶力の低下 | 頭痛 | うつ状態 |
| 発汗 | 肩こり | のぼせ、火照り |
| 冷え | 頻尿 | イライラ |
| 抜け毛 | 不眠 | 倦怠感 |
| 動悸 | めまい | 口の渇き |

更年期障害の可能性※1

40-50代の女性の内3-5割程度更年期障害の可能性がある



※1 厚生労働省（2022）「更年期症状・障害に関する意識調査」

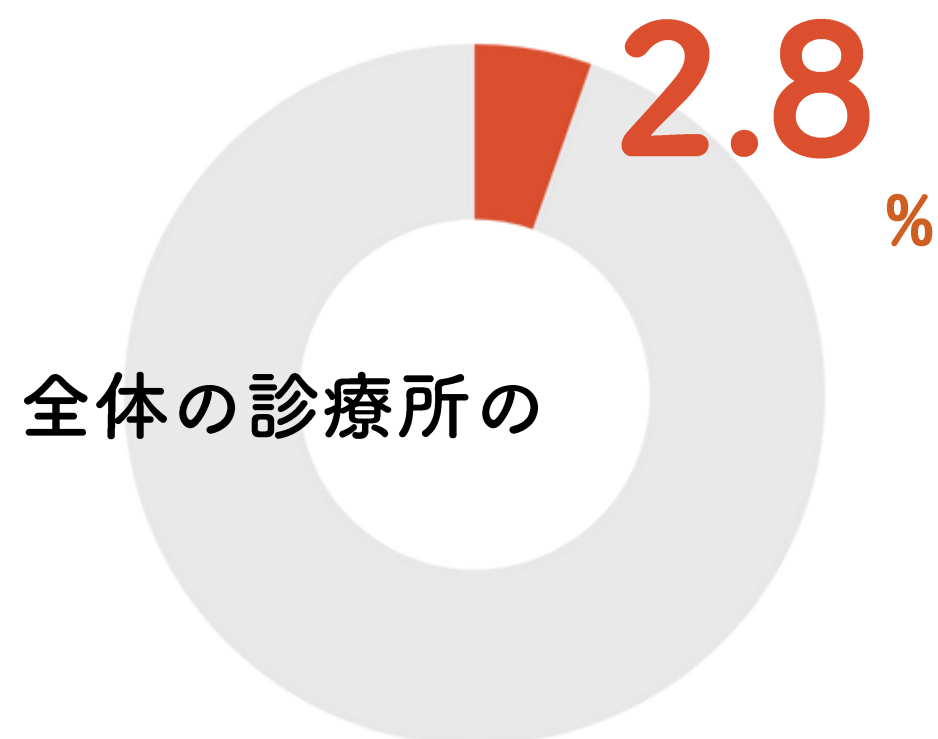
※2 経済産業省（2024）「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」

事業背景 -更年期治療に関する概況-

- ・診療報酬の低さや、お産・婦人科がんを優先的に対応しないといけない背景からも更年期障害を熟知している医師は少ない。
- ・更年期医学会は国際的な標準治療である、減少した女性ホルモンを補充するホルモン補充療法(HRT)を推奨している。

数少ない産婦人科クリニック

産婦人科を標榜する診療所は
全国に2,826施設しかない※1

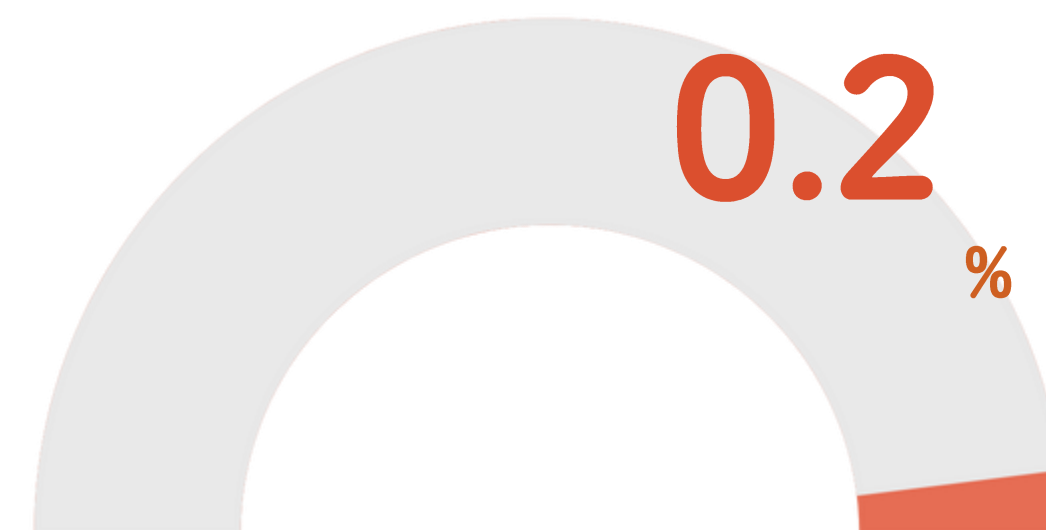


※1 厚生労働省「令和2（2020）年医療施設（静態・動態）調査（確定数）・病院報告の概況

更年期を熟知した医師は少ない

女性ヘルスケア専門医は約1,300名 ※2

更年期障害に深い知見がある
医師は医師全体の



※2 日本女性医学学会「女性ヘルスケア専門医・専門資格者一覧」

事業概要

更年期症状に悩む女性に、適切な更年期治療を届けることで、健康を諦める人を減らす。

MYLILY
マイリリー

更年期障害特化のオンライン診療事業

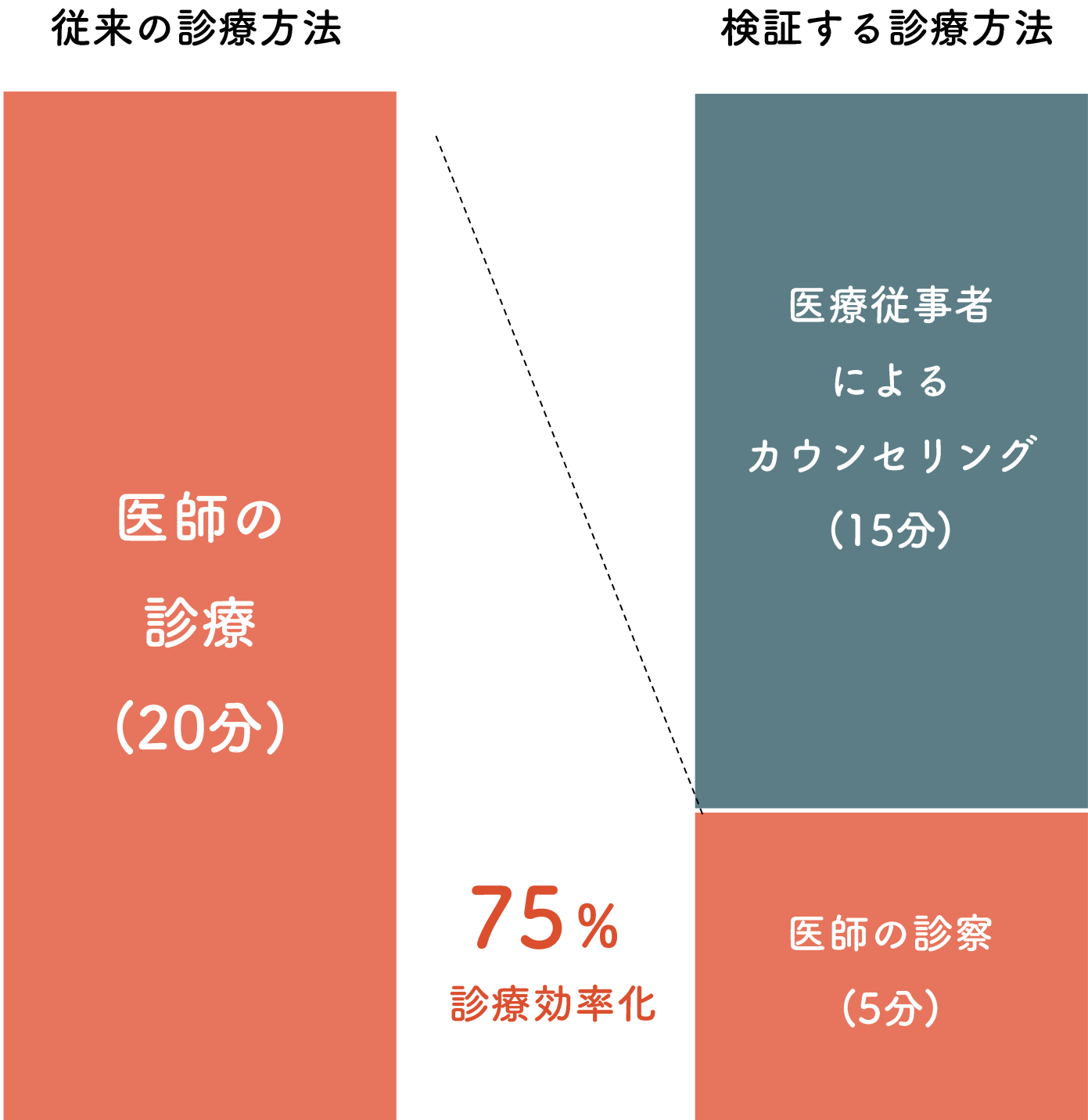
- 01 スマホ一つで更年期障害を熟知した産婦人科医師による手厚い診察
- 02 HRTから漢方まで幅広い医薬品から処方
- 03 診療前後の継続的な症状データ取得により個別ケアを推進



事業目的

医師と医療従事者のコラボによる、持続可能な更年期オンライン診療の実現

- ・ 医師と医療従事者のコラボ診療の場合でも従来と比較して症状軽減の実感割合の差異が生じないこと、また満足度が変化しないことを証明する



目的

医療従事者が更年期診療の傾聴やヒアリングを担当し、医師と連携することで拡張できる診療体制を構築し、サービスを提供できる先を広げることを目的とする。

検証

そのために、医師と医療従事者のコラボ診療の場合でも医師のみが診療に携わる場合と比較して、症状軽減の実感割合の差異が生じないこと、また満足度が変化しないことを証明する。

実施項目とKPI

- ・ 2024年10月15日から実施項目4件の実証を開始した。
- ・ KPIは利用件数と、NPS、利用前後の症状変化の推移とした。

実施項目

- ・ MYLILYの診療・処方薬の服用・24時間の個別ケアサービスを2ヶ月間利用
- ・ MYLILY利用前後のアンケート回答
- ・ MYLILY利用前後の症状変化推移
- ・ MYLILYのNPS

【実施方法】

企業を通じて実証の案内。対象者は更年期症状を抱える女性社員

参加企業：

株式会社丸井グループ、伊藤忠商事労働組合

オムロンヘルスケア株式会社、artience株式会社

日本生命保険相互会社

株式会社バリュークリエイト

KPI

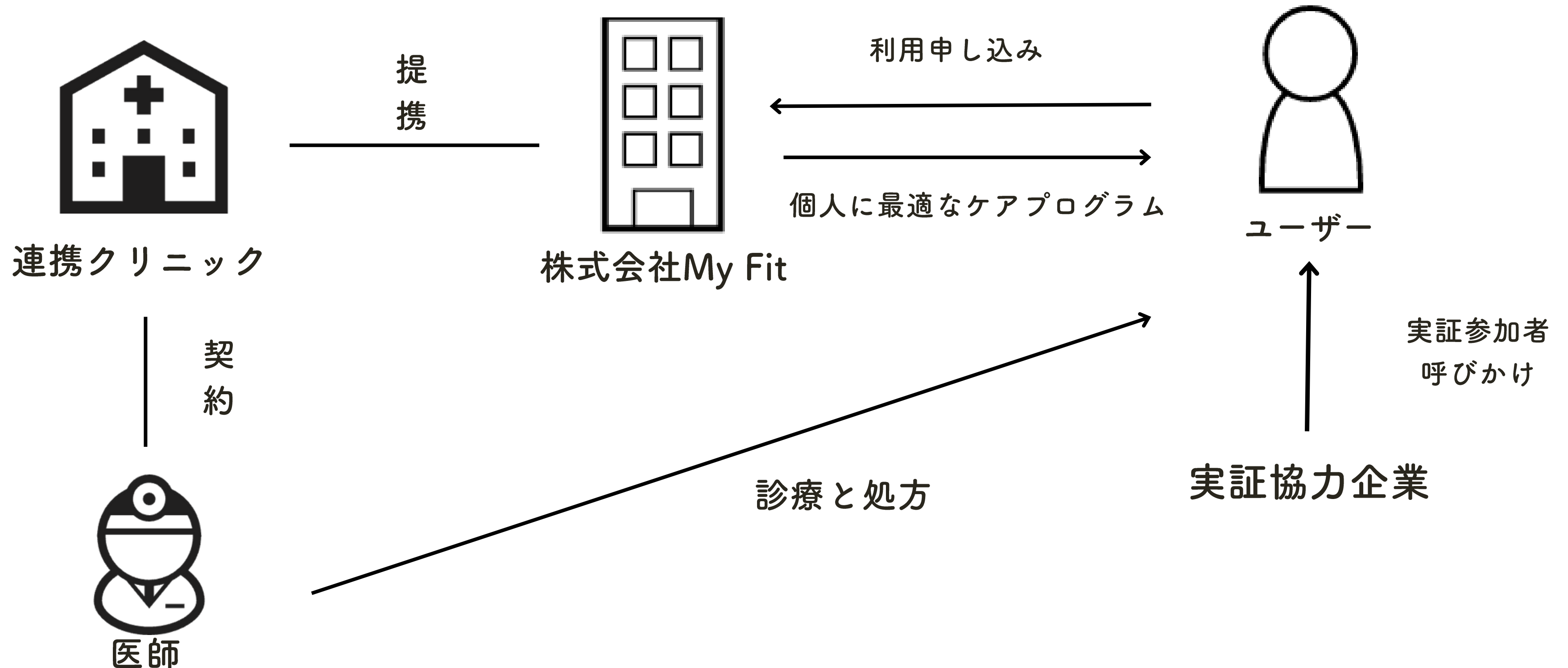
- ・ 利用ユーザー230件

・ 「あなた自身についてうかがいます。過去4週間(28日間)の勤務日における総合的なパフォーマンスを、あなた自身はどのように評価しますか？0から10までの尺度から選んでください。」の項目において、診療前後で80%の方が改善することを目標とする

- ・ MYLILY症状記録アプリでの症状変化の推移、80%が改善する
- ・ NPS 4.5(5点満点)

実施体制

My Fitを代表団体として、本取組を進行しており、医学的知見の提供や診療サービス、処方薬の提供などは定型クリニックにおいて実施。以下のような参加団体を構成する。



実施項目の達成率

- ・当初の見込みより安全性を高める作業に時間を割いた結果、参加者募集期間が2ヶ月半短縮された。
- ・当初想定より参加者規模が縮小したものの、サンプルサイズとして必要な最低限の70名は集めることができた。

実施項目		達成利用者数	達成率
01	MYLILYの診療・処方薬の服用・ 24時間の個別ケアサービスを2ヶ月間利用	2ヶ月利用 71人 1ヶ月利用* 6人	約33.4%
02	MYLILY利用前後のアンケート回答	利用前アンケート 81人 利用後アンケート 75件	約35.2% 約32.3%
03	MYLILY利用前後の症状変化推移調査	完了	完了
04	MYLILYのNPS調査	完了	完了

*目標KPIに近づけるため、実証期間を短縮し、その分利用者数の増加を図ることとした。そのため、1ヶ月利用者枠を拡大した。

実施項目ごとの成果 (01 MYLILYの利用について)

MYLILYの提供プログラム内容

- ・2ヶ月間のプログラム。オンラインにて更年期障害を熟知した医師による診療から処方薬の服用、症状記録を行うという内容。
- ・HRTは“ホルモン補充療法ガイドライン”に準拠し、半年以内の採血検査の確認、1年以内の各婦人科がん検査確認にて異常がないもののみ処方した。

全2ヶ月間のプログラム

診療

1



更年期障害を熟知した女性ヘルスケア
専門医と医療従事者による診療

スマートフォンを使って1人あたり
20分の診療を提供。平日土日
10:00~22:00の時間帯で好きな時間
に予約可能。

処方薬の服用(処方有の場合)

2



医師が処方薬が必要と判断した場合は、
2ヶ月間の処方薬の服用を開始

処方薬は漢方5種類（加味逍遙散、半夏厚朴湯、当帰芍薬散、桂枝茯苓丸、五苓散）とHRT（エストラジオール、エストラーナテープ、ル・エストロジェル、デュファストン、プロベラ）を個人に症状に合わせ処方。但し、HRTは“ホルモン補充療法ガイドライン”に準拠し、半年以内の採血検査の確認、1年以内の各婦人科がん検査確認にて異常がない者のみ、処方する。

定期的な症状記録

3



MYLILY社が提供するセルフケア
アプリにて症状を記録

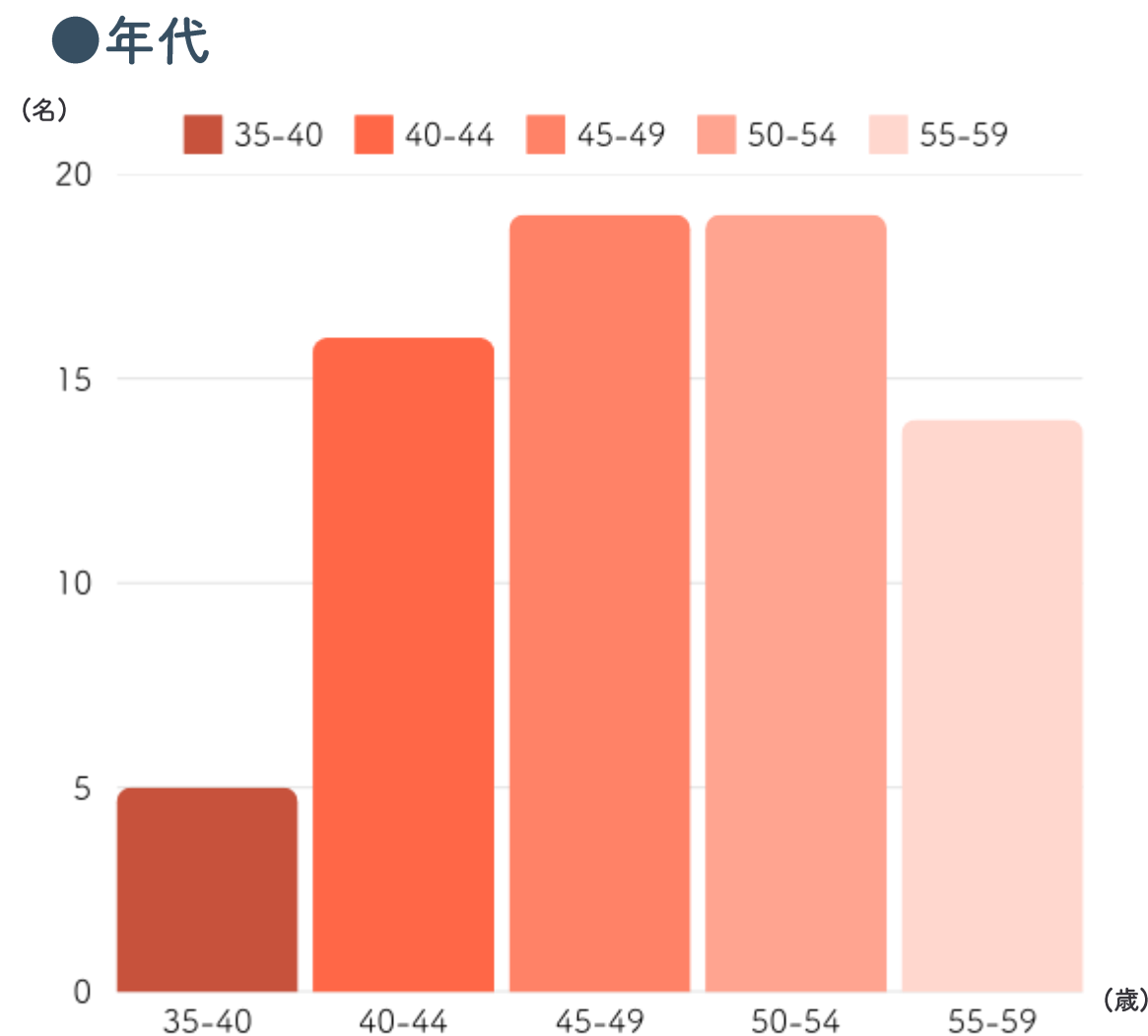
処方開始から2週間経過後、1ヶ月経
過後、2ヶ月経過後に症状記録を実証
者が自ら行う。
各症状の体調記録や、月経記録を提供
する。

実施項目ごとの成果 (01 MYLILYの利用について)

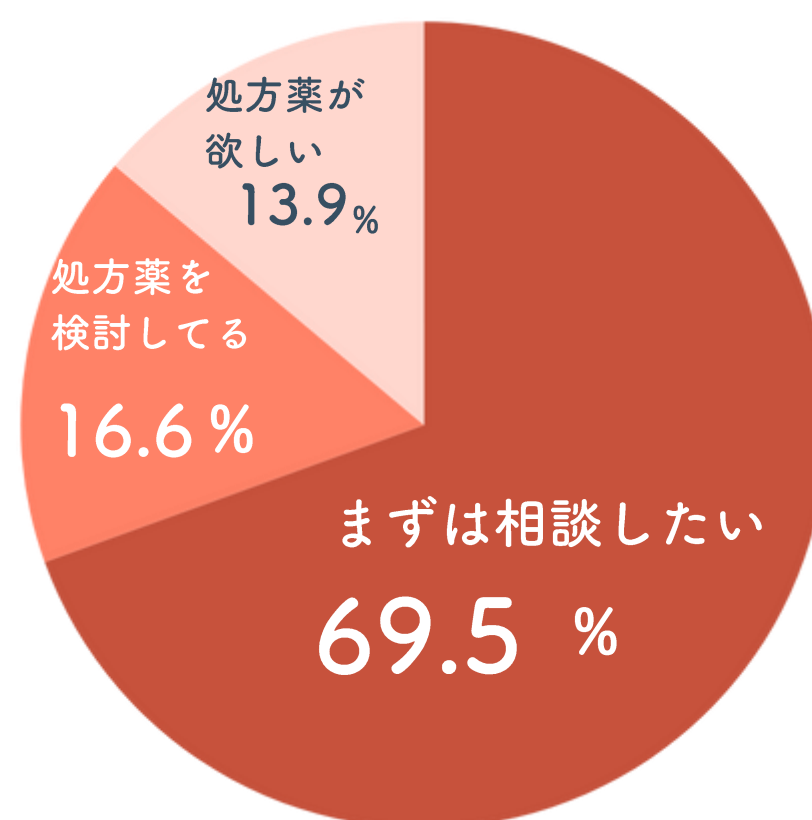
- ・ 71名の実証参加者のうち、7割は処方薬を検討しておらず、まずは相談したい目的でサービスを利用。
- ・ 71名の実証参加者のうち、6ヶ月以内に更年期症状と病院で診断を受けている人はわずか10%だった。

結果

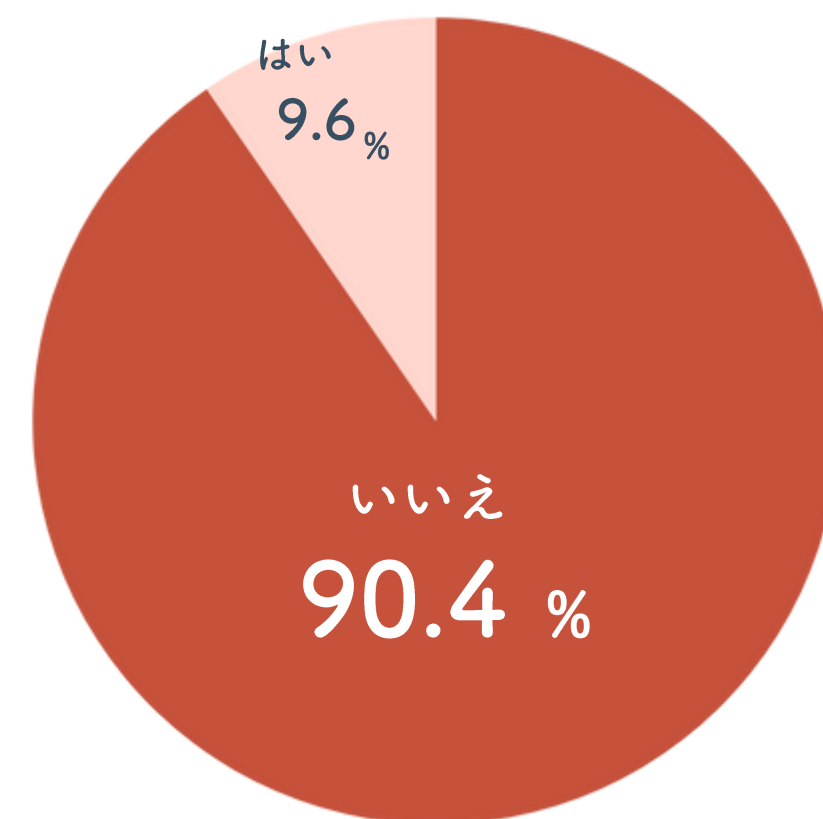
- ・ MYLILY2ヶ月利用 **71** 名
- ・ MYLILY1ヶ月利用者は**6** 名（実証期間が短くなったため、効果測定は分けて行った）
- ・ MYLILY診療のみ利用 **4** 名（医師の判断により処方なし）



●サービス利用の目的



●更年期症状と6ヶ月以内に病院で診断を受けてるか

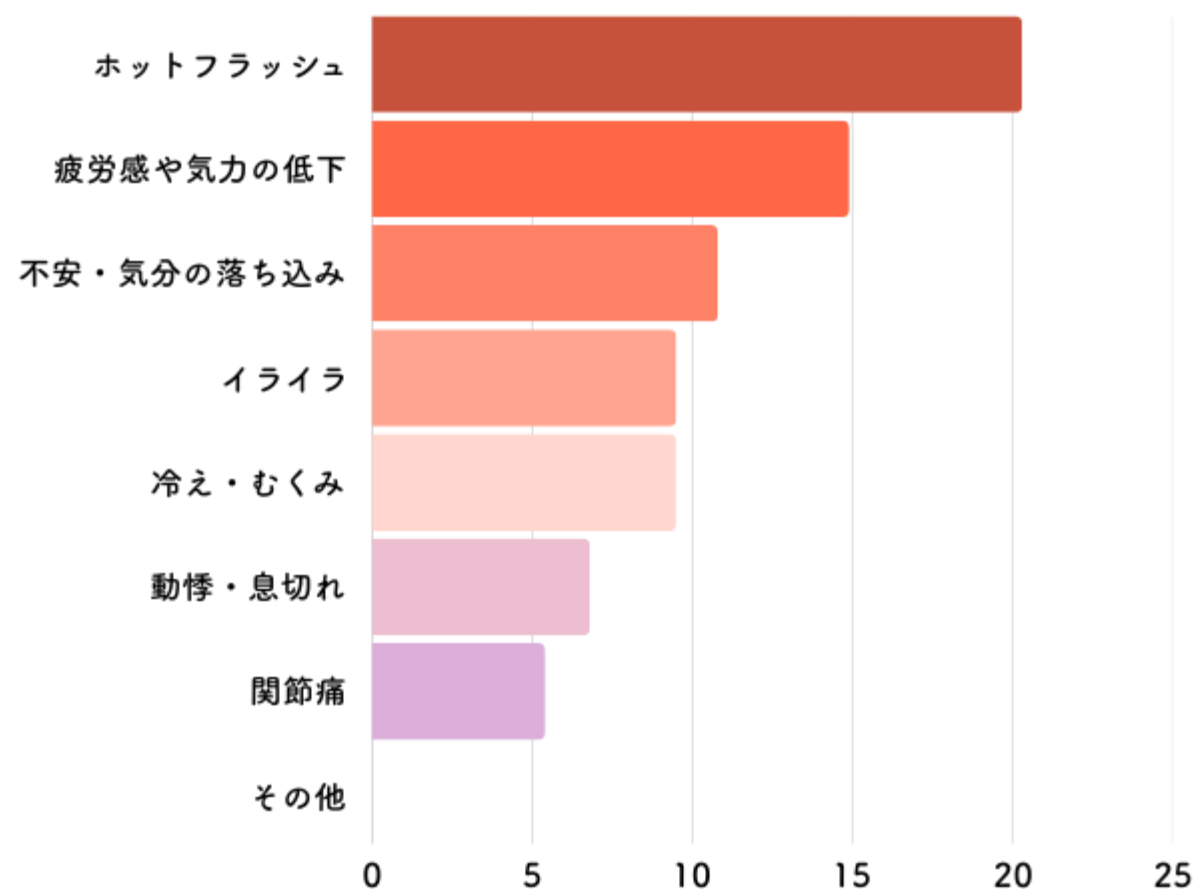


実施項目ごとの成果(02 MYLILYの利用前アンケートについて)

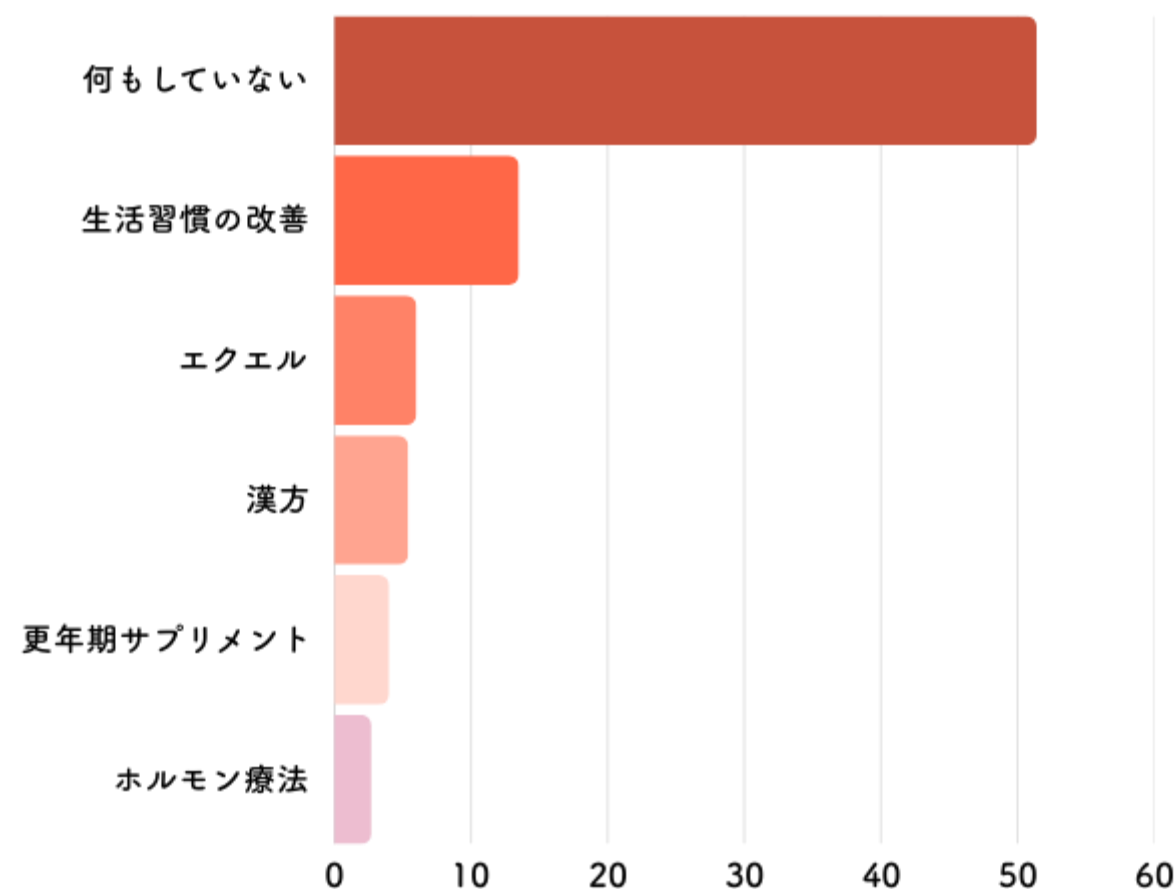
MYLILYの利用前の症状調査(独自調査)

- ・最も辛い更年期症状は**ホットフラッシュ/ゆらぎ**という血管運動症状が上がったが疲労感や気力の低下、不安・気分の落ち込み、イライラといった精神的な症状が次に続いた。
- ・MYLILY利用前には、更年期症状改善のために**何もしていない**人が過半数であった。
- ・月経は **毎月規則的にある人** が36%と、プレ更年期と見られる人も多かった。

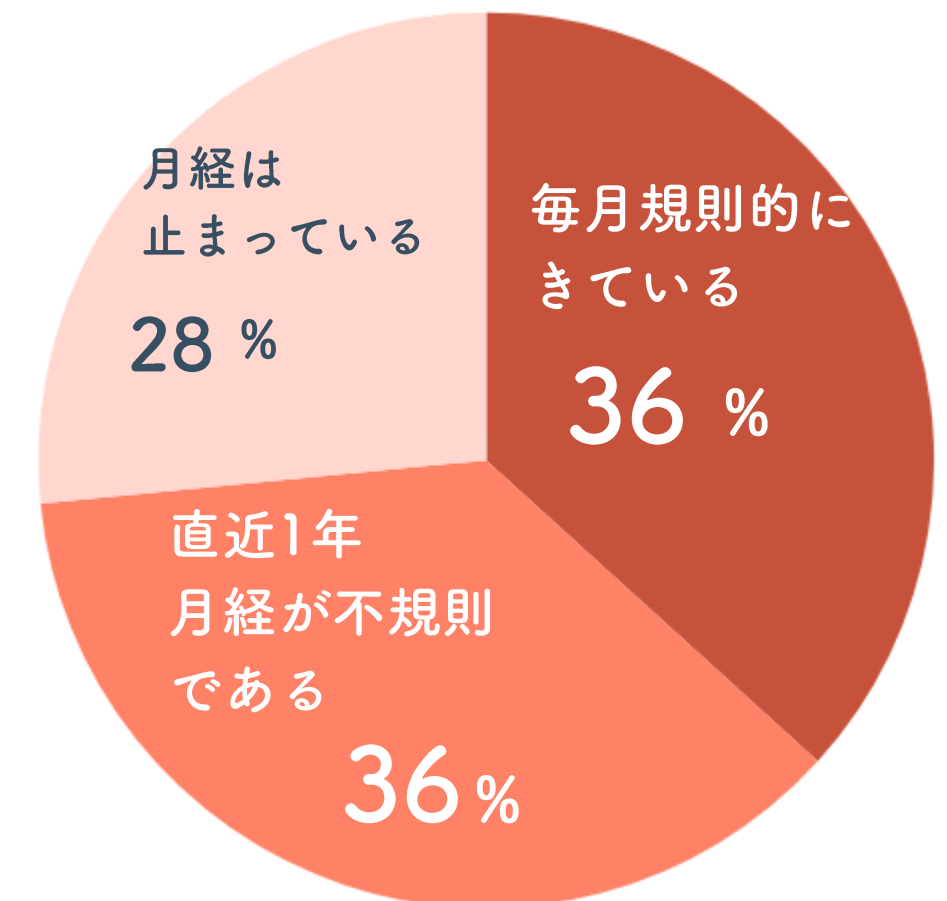
●最も辛い更年期症状は？



●更年期症状改善のために既に試したものはありますか？



●月経の状態について



実施項目ごとの成果(02 MYLILYの利用前アンケートについて)

MYLILYの利用前アンケート自由記述欄コメント抜粋

- ・今回の実証事業では、できるだけ薬に頼らず、更年期を乗り越えたいという意見が多く拝見された。
- ・更年期の変化や症状の進行がどうなるのか分からず、不安を感じている人が多いことがコメントから拝見された。

更年期障害の基礎知識に関する自由コメント

- 生理が1年以上来ていないが、目立った更年期障害は感じていないので婦人科に通院せずこのまま様子を見ればいいのかがよくわからない。
- ホットフラッシュは何年程度続くのか、どんどん酷くなるのか。最近、蕁麻疹が頻繁に出来ることは更年期の症状としてあり得るのか。私の更年期症状の程度はどのくらいなのか。
- 夜中に目が覚めてしまった時、どのように過ごせば、眠れるようになりますか
- 更年期障害の一般的な経過はどう進んで行くのでしょうか。

医薬品に関する自由コメント

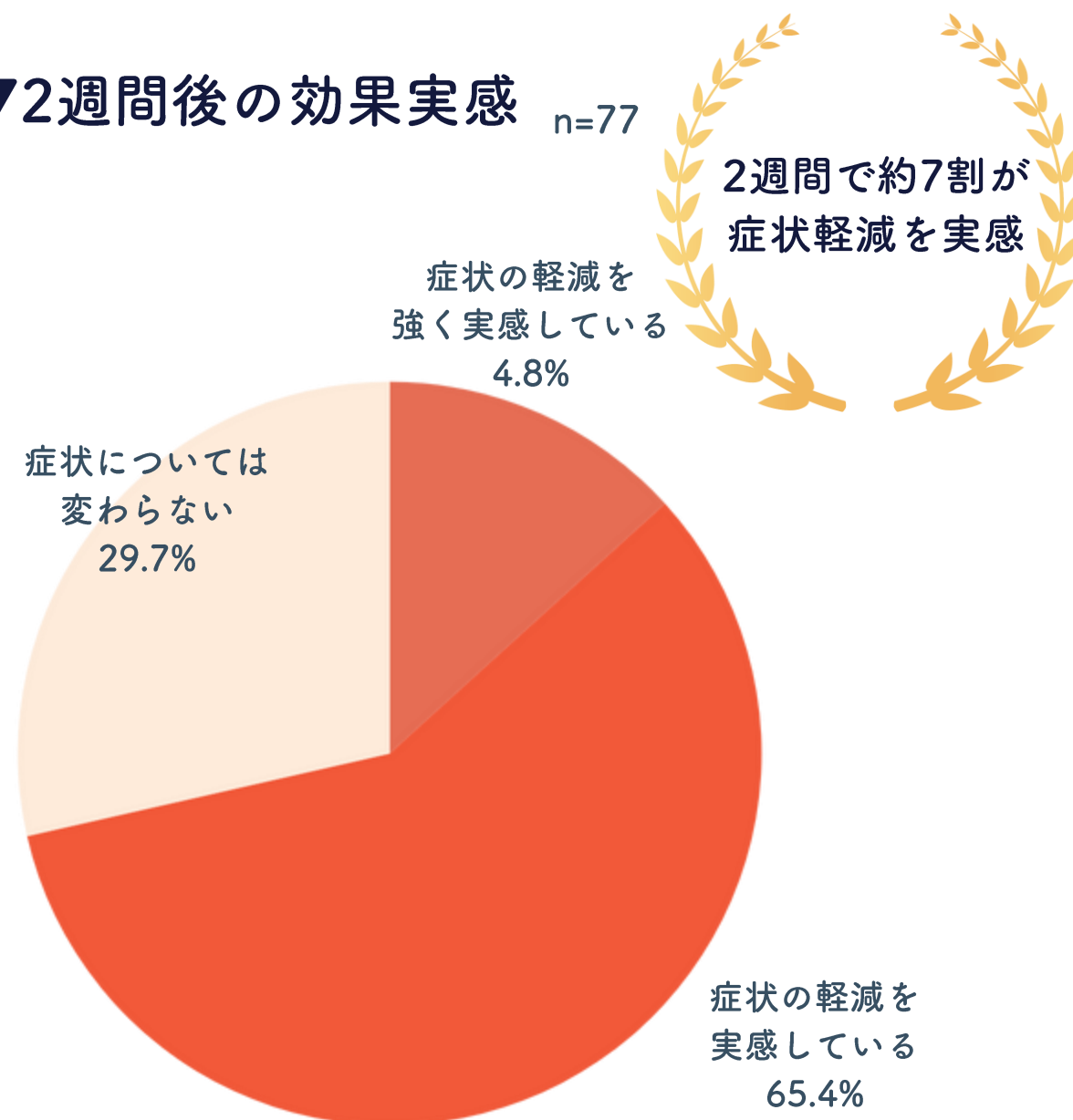
- 強い薬は使いたくないのですが、ホットフラッシュの症状は改善したいと思っています。
- 以前にパニック障害、現在も適応障害にて薬を服用中であるが、最近更年期障害の症状も出てきているため、出来れば薬ではなく食事や効果的な体の動かし方などを知りたいです。
- はっきりした症状が出たらホルモン療法なども希望だが、現在はできるだけ薬に頼らずにいたいです。症状が重くならないようにできることがあれば、実践していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

実施項目ごとの成果(03 MYLILY利用前後の症状変化推移調査)

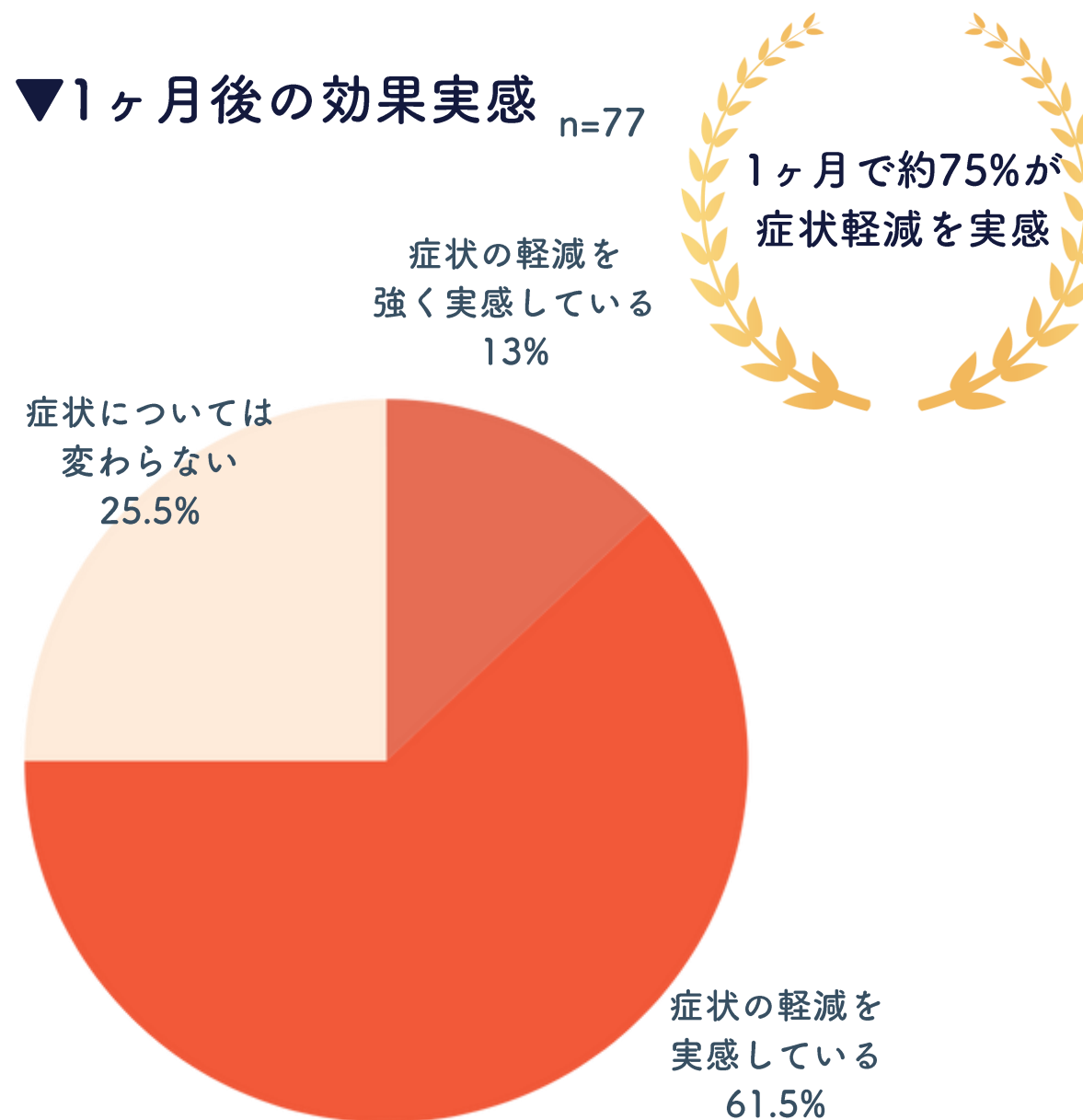
MYLILYの利用前後の症状変化

- 2週間後の効果実感アンケートでは約 **70** %が症状軽減を実感 (n=77)
- 1ヶ月後の効果実感アンケートでは約 **75** %が症状軽減を実感 (n=77)
- 2ヶ月後の効果実感アンケートでは約 **80** %が症状軽減を実感 (n=71)

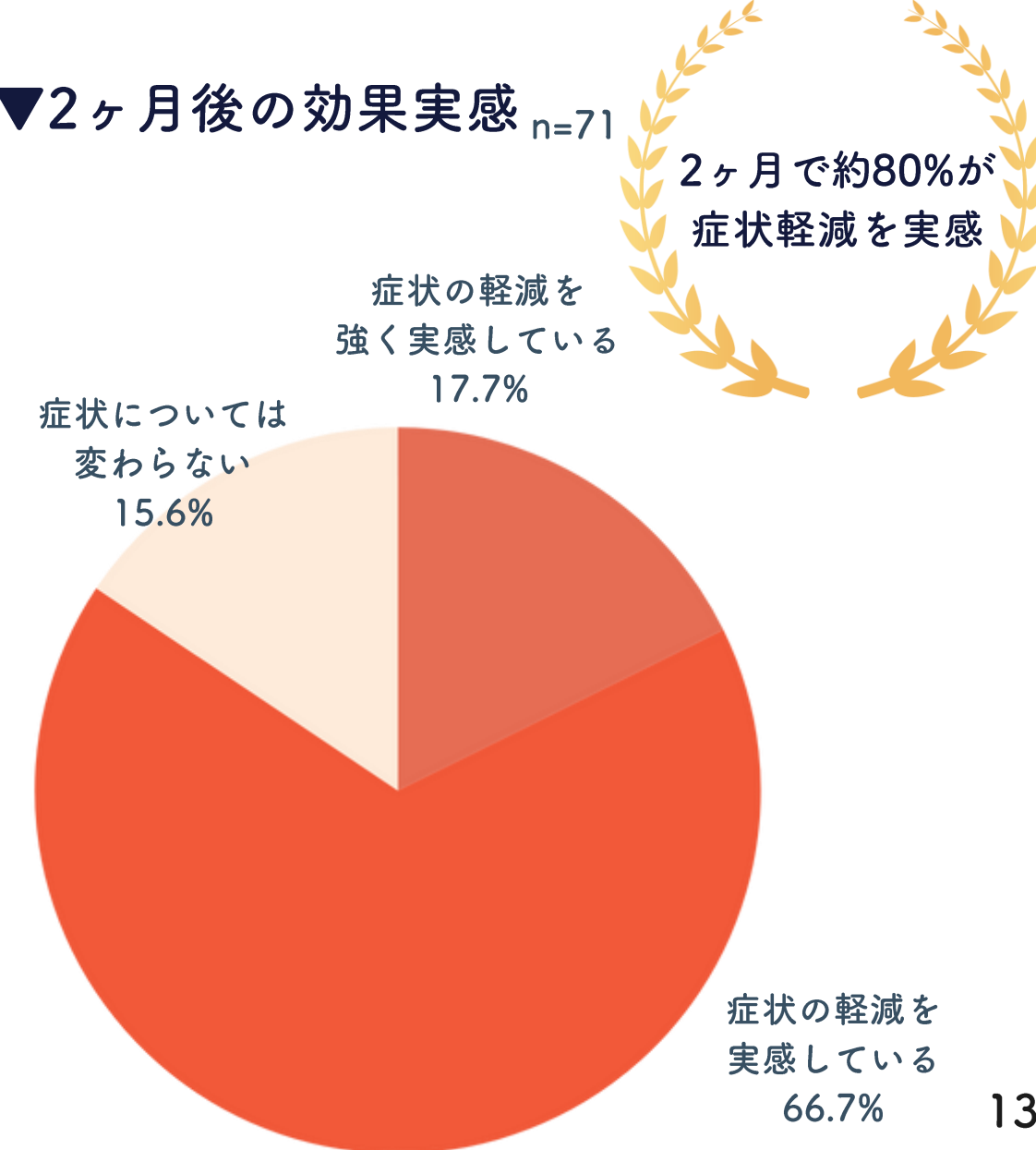
▼2週間後の効果実感 n=77



▼1ヶ月後の効果実感 n=77



▼2ヶ月後の効果実感 n=71



実施項目ごとの成果(03 MYLILY利用前後の症状変化推移調査)

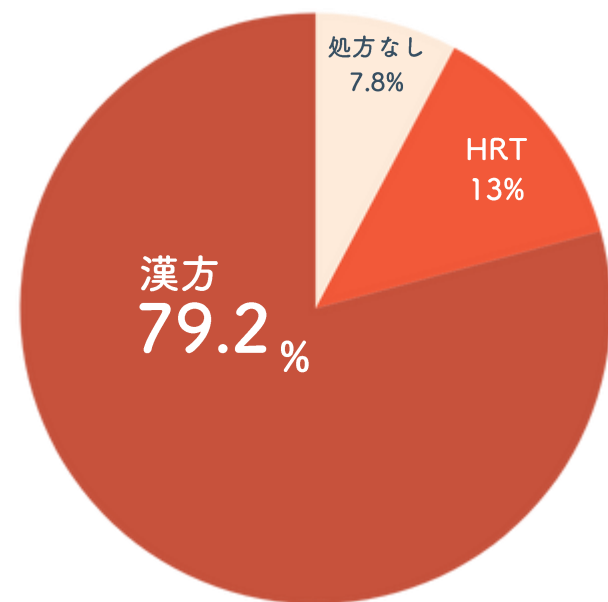
MYLILYの利用前後の利用者の心境の変化

- 実証利用者の漢方服用意向が強かったことから、**80%**が漢方を服用する結果に。(n=77)
- 利用者のうち **68%**が、自分や職場に良い変化があったと実感 (n=77)
- 自身の健康課題について気にかけている **3.2%**増加 (n=71)

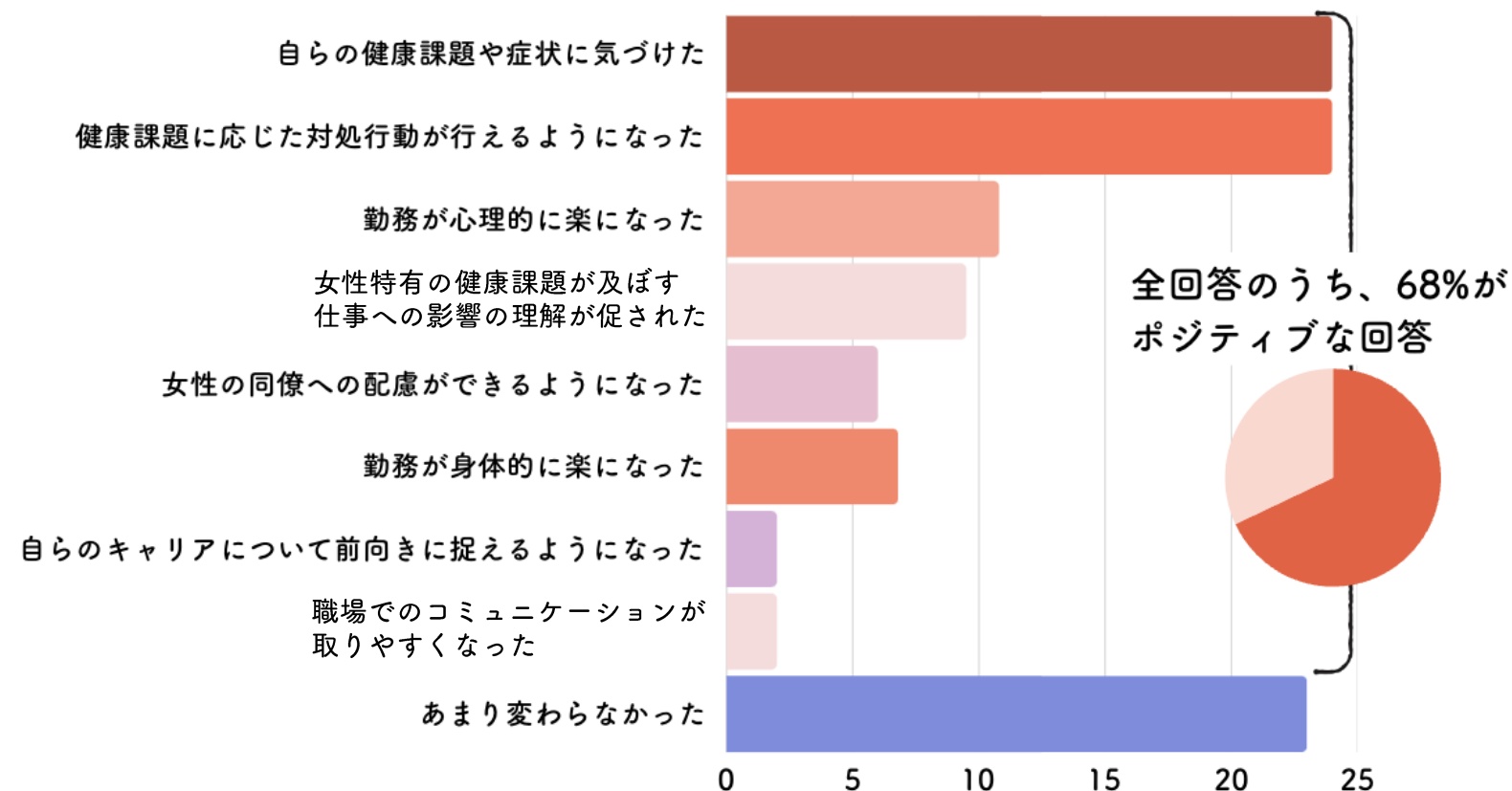
1 利用者へのインパクト

MYLILYによって、あなたや職場に起こった具体的な良い変化をお答えください。

▼処方された薬の内訳

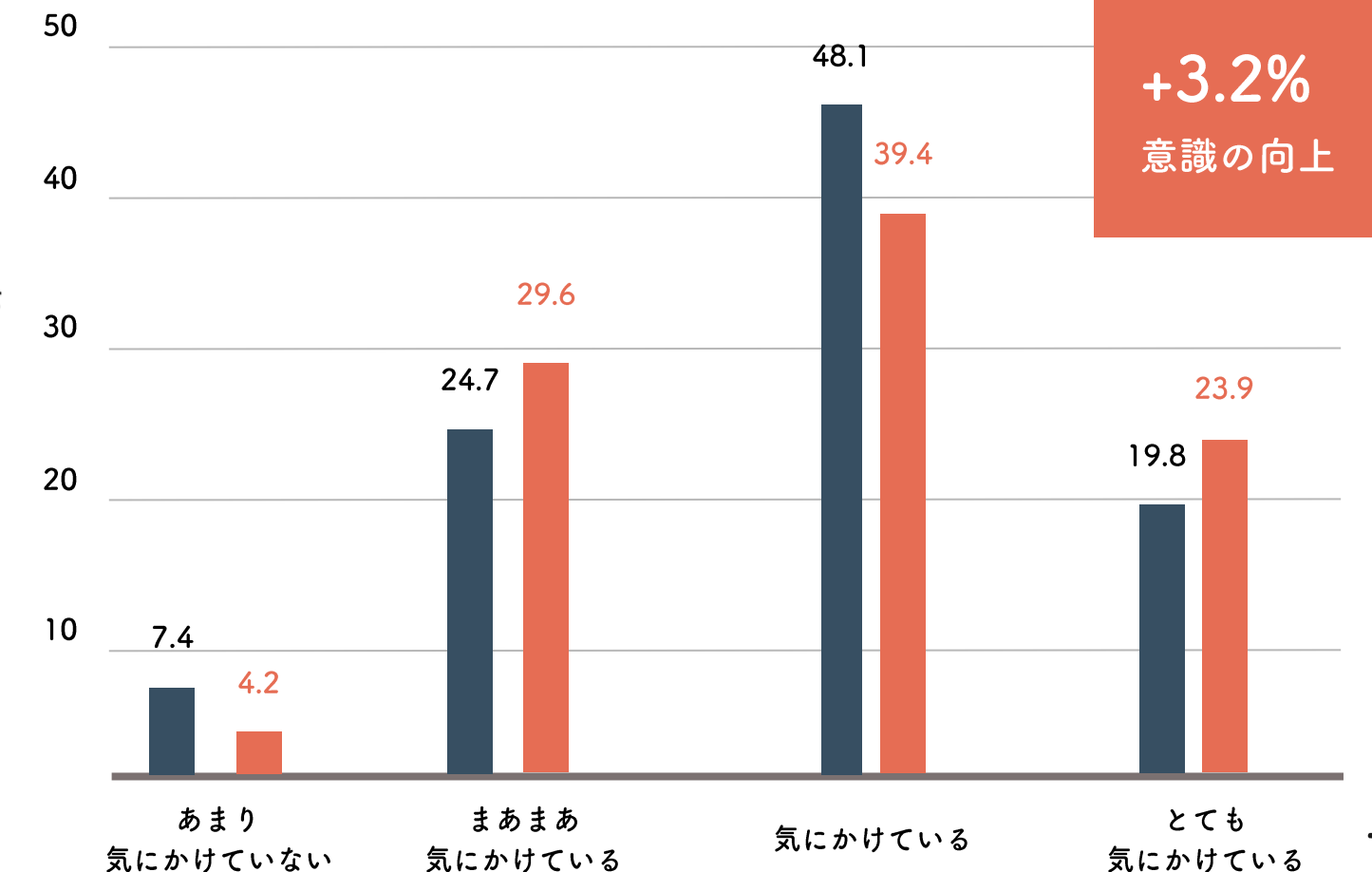


処方なしは、医師の判断/
実証者の意向によるもの



2 利用者へのインパクト

あなたご自身の女性特有の健康課題について、日頃の考えをお答えください。

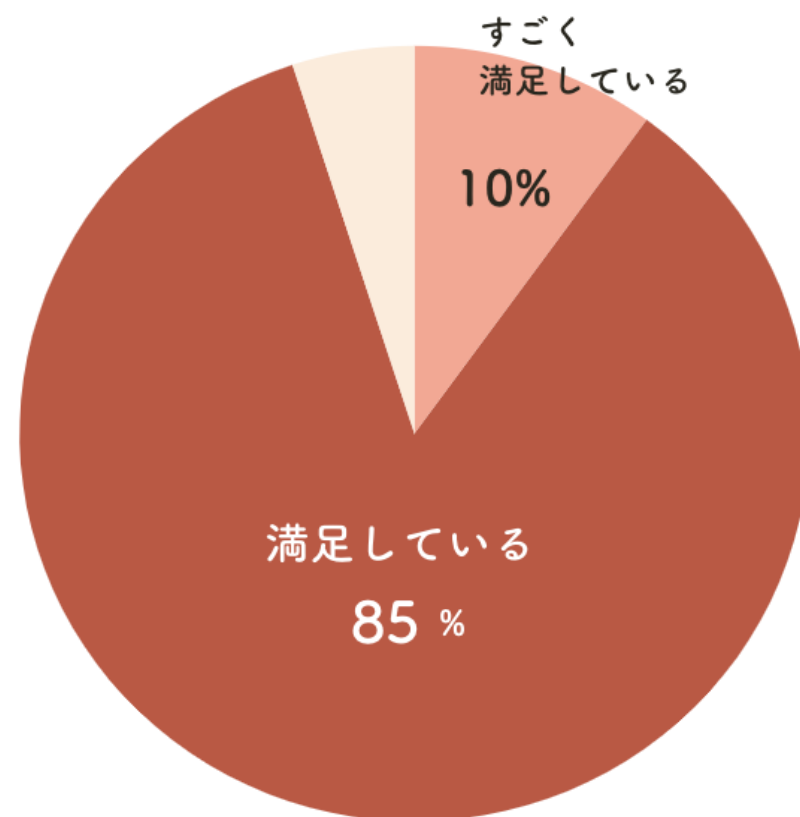


実施項目ごとの成果(04 MYLILYのNPS調査)

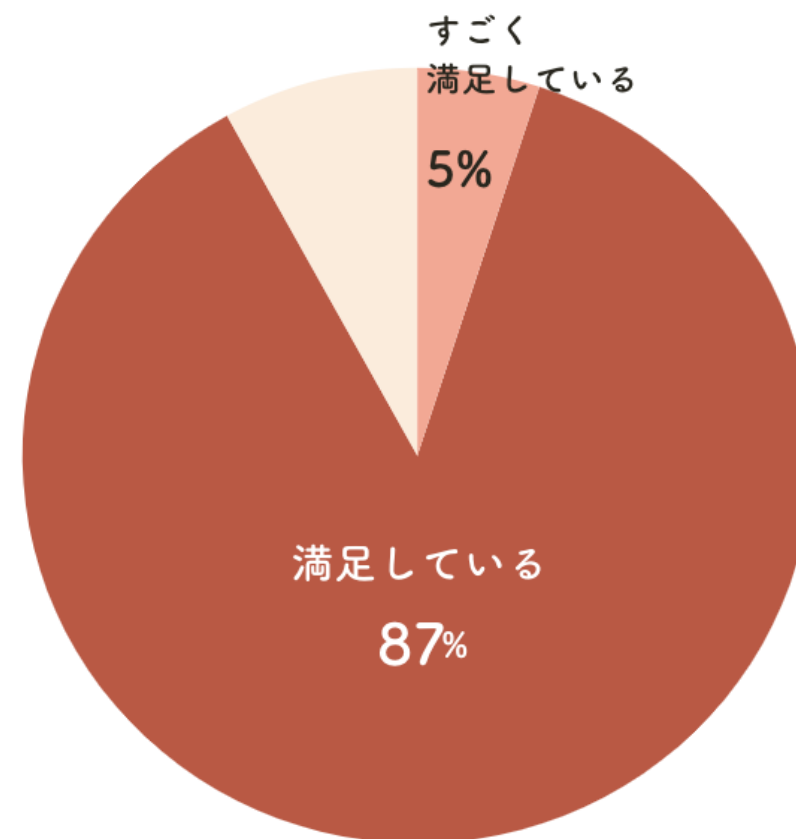
MYLILYの利用満足度の調査

- 医師と医療従事者のコラボ診療では、満足していると回答する人が92%だった。
- 満足度への大幅な変化は生じず、医師のみが診療時と同程度の満足度を証明することができると思う。

医師が20分診療していた際の
NPS調査結果



医師と医療従事者のコラボ
診療の際のNPS調査結果



総評

通常時より満足度が3%ほど低下したが、
実証事業者へのサポート体制が行き届いて
いなかったことが要因の1つと考えられる。



医師と医療従事者のコラボ診療への満足度は
医師のみの診療時と比較して大幅に変化が
ないことが証明できた。今後オペレーションを
磨くことで満足度の向上が可能であると思う。

全体成果と考察

- ・医師と医療従事者のコラボ診療は、通常の診療パターン(オンライン診療時間の内、医師が100%全ての業務を担う)場合と比較して症状軽減の実感割合、並びにサービス利用満足度に大幅な変化が生じないことが証明できた。

01 医療従事者と提携することで

医療従事者が15分、医師が5分のコラボ診療で、実証を検証することができた。スムーズなオペレーションの実現は今後の課題である。

02 サービスを提供できる先を広げ

興味関心を示した企業数：4社
実証に参加した企業数：4社
今後も継続導入を検討している企業数：2社

03 症状の軽減の実感割合の差異が生じないこと

通常の診療パターン(オンライン診療時間の内医師が100%全ての業務を担う)場合の2ヶ月後の症状軽減実感率は85%であるが、今回のコラボ診療(オンライン診療時間の内、医師が担う業務が25%)の2ヶ月後の症状軽減実感率は80%
→本実証者へは漢方の処方割合が多いことから、即効的な効果を感じやすいHRTが多く処方される通常時より、症状軽減実感率が下がったと考える。

04 満足度に変化ないことを証明する

通常の診療パターン(オンライン診療時間の内医師が100%全ての業務を担う)場合は満足度95%であるが、今回のコラボ診療(オンライン診療時間の内、医師が担う業務が25%)では満足度は92%
→大幅な差がないことが証明できた。

課題と対応策

- ・ 実証と実臨床では参加者の属性に違いがあり、実臨床においては、更年期障害とは認識されていない方の受診率が高まる傾向があった。
- ・ 実証参加申込者数と実証参加者数に19名の乖離が生じたが、これは実証企業担当者の呼びかけを強化することで対策できると考えられる。

課題

①実臨床と実証の参加者像が異なった

実臨床では、患者自身が何かしら更年期障害を疑って受診に至っている。しかし、実証では普段受診には至らないだろう不定愁訴の方の申込もあった。このことから、更年期障害に対する基本的な知識が不足していることが考えられた。

②参加申込をしたが実証参加に至らなかった

短期間で、実証参加への意思決定をしてくれた大企業を複数社獲得できたことから、更年期障害への対策ニーズの高まりを感じた。

一方で、参加申込者数96名に対して、実証参加者は77名で19名の乖離が生まれた。理由として、受診ハードルへの高さと、個別に声掛けができずリマインドが難しかったことが挙げられる。

対応策

①リテラシー向上支援

更年期障害のリテラシーを向上するために、セミナーを開催する。そのうえで、自身が抱える症状や悩みが更年期障害と考えられる場合には、当社サービスを使用してもらえよう基盤を整える。

②実証企業担当者との連携

実証企業担当者が実証参加希望社員へのリマインドを繰り返し行っていた会社では、参加希望者と参加者に乖離が見られなかった。そのため、実証企業担当者には、1度ではなく3~5回に渡り社員様へアナウンスを行ってもらい、呼びかけに協力してもらう。

今後の事業展開

- ・診療サービスの前段階として、リテラシー向上のためのセミナーを必須とし、自社でも診療の必要性を判断できる簡易診断を導入する。
- ・企業導入の際は、企業担当者と密に連携し、複数回にわたるサービスの告知を行う。
- ・法人企業への展開の際は、40-50代女性にとどまらず全世代・全性別の社員が利用できるようにサービスの多角化をしていく。

01 診療前ステップの構築

診療サービスの手前のステップを用意。企業向けの場合は、リテラシー向上のためのセミナーを必須とし、自社でも診断前に診療が必要か判断できる簡易診断を用意する。また、更年期障害が重要度が高い課題なものの、緊急度が低いと判断し、治療を後回しにする女性が多いことから、企業担当者とは密に連携し、複数回にわたるサービスの告知を行うことが重要であると考え。

02 サービスの多角化

診療時以外にも医師に自由に相談できるチャット相談サービスがあるが、実証者が使い方がわからず今回の実証期間中で使用されることが少なかった。チャット相談サービスのUX向上に務めるとともに医療以外でのセルフケアサポートまで伴奏できるようなプログラムを用意していく。また今回実証参加企業を募集する際、女性の更年期障害だけでなく、20-30代の女性の健康課題への拡張や男性更年期への拡張を望む声が多く上がった。企業向けに展開する際にはサービスを提供できる、ユーザーの拡張に注力していきたい。